

企画展  
**総天然色！**  
 考古資料のあざやかな世界

所詳美術博物館 Ⅸ(35)2550

期間 1月9日(土)～3月7日(日)

開館時間 9時30分～17時 (入館は16時30分まで)

会場 第1・2展示室

休館日 毎週月曜日 ※1月11日(月)は開館し、翌12日(火)が休館

観覧料 一般300(240)円、高大生200(140)円、中学生以下無料

※( )内は10人以上の団体料金、年間観覧券での観覧可  
 ※併せて収蔵品展、常設展示も観覧できます

展示概要

遺

跡から出土する資料の中には、色鮮やかなものが数多く見られます。赤色に塗られた土器や漆塗櫛、お墓の底にまかれたベンガラ、遠く運ばれてきた黒曜石やアオトラ石、ヒスイといった石器や玉類の素材。これらは当時の人々が遠隔地からわざわざ取り寄せて使用していた顔料や鉱物によるもので、道具の形や機能とはまた異なるモノづくりの考え方の一端を表しています。考古学はモノを通して過去のヒトの営みを解明する学問であり、モノには「形」と「色」の要素が含まれます。しかし、長い埋没中に失われやすい色に関しては取り上げられることが多くありませんでした。

本展示では、これまであまり着目されていない考古資料の色に焦点を当て、その鮮やかな「色」を考古学、自然史のみならず美術的な側面からも見ていきます。

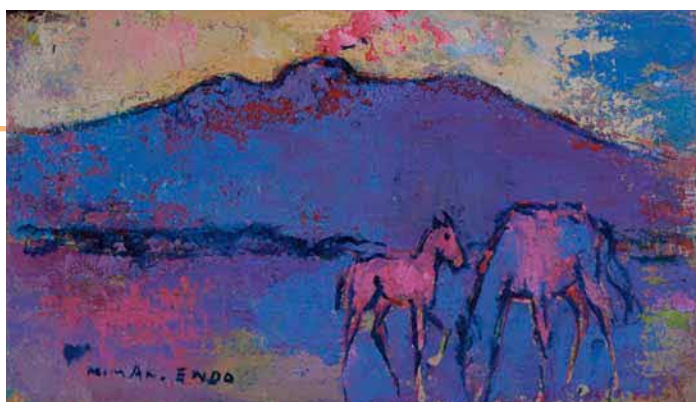
- 社台1遺跡 (白老町)  
ヒスイや滑石製の装身具



- 美沢1遺跡 (苫小牧市)  
お墓にまかれた赤い顔料



- えんどう 遠藤 ミマン  
《藍の親馬仔馬》  
1979年  
油彩・カンバス  
苫小牧市  
美術博物館蔵



- 野田生1遺跡 (八雲町)  
北海道指定有形文化財  
赤彩注口土器

